

授業概要

前半では江戸期以前に使われていた、変体仮名を読めるようにしていきたいと考えている。そのために百人一首からさらには江戸時代の版本などを実際に読んでみるという作業を行う。その上で、秋期には、自分の調べたこと考えたことを、人前で発表するということに挑戦してもらう。どの作品を扱うかについては、相談の上で決定したい。そこでは、ちょうど同時期に4年生がどのように卒業論文を準備しているのかということについても紹介したい。

授業の形態としては、ほぼ学生の発表により授業を進めることとする。

授業計画

第 1 回	導入	第 16 回	導入
第 2 回	変体仮名とは①	第 17 回	発表の仕方①
第 3 回	変体仮名とは②	第 18 回	発表の仕方②
第 4 回	百人一首発表①	第 19 回	資料の作り方
第 5 回	百人一首発表②	第 20 回	発表①
第 6 回	百人一首発表③	第 21 回	発表②
第 7 回	百人一首発表④	第 22 回	発表③
第 8 回	百人一首発表⑤	第 23 回	発表④
第 9 回	百人一首発表⑥	第 24 回	発表⑤
第 10 回	百人一首発表⑦	第 25 回	発表⑥
第 11 回	百人一首発表⑧	第 26 回	発表⑦
第 12 回	百人一首発表⑨	第 27 回	発表⑧
第 13 回	百人一首発表⑩	第 28 回	発表⑨
第 14 回	百人一首発表⑪	第 29 回	発表⑩
第 15 回	百人一首発表⑫	第 30 回	発表⑪
		第 31 回	定期試験

到達目標

変体仮名を読むことができ、自分自身で日本文化、日本文学の古典分野の発表の基礎的な準備ができるようになることを目標とする。

履修上の注意

日本文学入門、日本文学史概論（古典）、日本文学講読（古典）などの科目をすでに履修しているか、平行して履修してもらいたい。

予習・復習

授業は、学生の発表により進めることとなるので、2週間程度の準備が必要となるので、それには積極的に取り組んでももらいたい。

評価方法

発表および定期試験（80 パーセント）、その他受講態度等（20 パーセント）で、評価する

テキスト

特に指定しない。参考とすべき資料については、授業の中で指示する。

授業概要

この演習では、知的好奇心をなまけさせないように、現代の学問の奥深さに触れ、世界の中の日本を意識して、情報を発信したり受け取ったりするための基礎力を身に着けるために、特に「英語」で「読む」「書く」「話す」「聞く」の力を伸ばしていくことを目指したいと思います。ゼミ形式ですので発表が課せられる授業です。

具体的には 1 年生の時に皆さんが使った英語のテキストを読み返して、グローバル化した社会で、英語力を磨きさせない練習を取り入れます。またニュースなども取り入れ言葉による表現力の基礎を鍛える練習問題も使う予定です。ディズニーを英語で読むシリーズや英語字幕の映画英検教本を教材に使うことも考えています。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	Business Mathematics (1)
第 2 回	Letters and Languages (1)	第 17 回	Business Mathematics (2)
第 3 回	Letters and Languages (2)	第 18 回	Health and Nutrition (1)
第 4 回	Punctuation (1)	第 19 回	Health and Nutrition (2)
第 5 回	Punctuation (2)	第 20 回	Social Studies
第 6 回	Poetry (1)	第 21 回	Geography (1)
第 7 回	Poetry (2)	第 22 回	Geography (2)
第 8 回	Story (1)	第 23 回	Meteorology (1)
第 9 回	Story (2)	第 24 回	Meteorology (2)
第 10 回	Calculations (1)	第 25 回	World Issues (1)
第 11 回	Calculations (2)	第 26 回	World Issues (2)
第 12 回	Measurements (1)	第 27 回	Forensics (1)
第 13 回	Measurements (2)	第 28 回	Forensics (2)
第 14 回	Statistics - Its Basic	第 29 回	Home Economics (1)
第 15 回	Summary of the Spring Term	第 30 回	Home Economics (2)

到達目標

図書館との付き合い方の習得、読んだものを記録として残す、ゼミ形式の授業に慣れる。英語でリベラル・アーツのユニットを読む、講義を聞く（質問することによって参加意識を確立する）、ノートを取り方、研究のテーマを決める、補助教材としての印刷教材を土台にして、口頭発表、種々のレポートの作成。

履修上の注意

1 年の時のリベラル・アーツをテーマにした英語の記事を中心に読んだり書いたり、聞いたりすることなどを通して、何が議論する価値のある課題であるかを考え決定します。また、ユニットによって異なる主張が特に取り上げる価値があります。配布された印刷補助教材をグループで解いていきます。演習のまとめをその日のうちにしておくようにしてください。積み重ねが大切ですので、欠席しないように。

予習・復習

配布された印刷教材にあらかじめ目を通しておき、アンダーラインを引いたり、メモを書き込む。またゼミの時に質問できるようにあらかじめ疑問に思うこと、問題点、自分の代案などを考えておく。毎回、授業の内容や得たことを、ノートに基づいて整理しておくこと。

評価方法

演習への参加度と提出物(30%)、および筆記試験(70%)で総合的に評価します。

テキスト

1 年生の時に用いた英語の教科書を使います。また印刷教材をこちらで用意します。
念のため書名を記しておきます。上村淳子、アイリーン岩崎、原雅久 (2015) *Knowledge Exprader — English for Liberal Arts*, Asahi Press.

授業概要

カルチュラル・スタディーズ 映画を読む

映像教材を利用し、映画の重要な場面を見て、映画の文化的無意識を考え、あまり大学では論じられないサブカルチャーが方法次第で、いかにスリルに満ちた研究対象へと変貌するか、その知的興奮を堪能したい。

とりわけ、竜という恐怖イメージを中心的に分析することで、人間にとって敵や恐怖とは何かを考察してゆく。また、『アナと雪の女王』におけるお姫様、クトゥルフ神話 SFにおけるロボットの進化、原発や東日本大震災と津波、原爆のキノコ雲など、様々なテーマを探究したい。『ドラゴンクエスト』はいかなる文化風土から誕生したのか。『シン・ゴジラ』はどのように進化したのか。新海誠の『君の名は。』はなぜ大ヒットしたのか。ジブリの『崖の上のポニョ』の津波のシーンは、トラウマをかかえた人々にとってどう映るのか。いくつかの疑問を提供することで、映画とサブカルチャーの魅力に迫る。

授業計画

第 1 回	カルチュラル・スタディーズとは	第 16 回	ゾンビ映画文化論
第 2 回	自己紹介 ゼミの目的について	第 17 回	現代日本のゾンビ文化史
第 3 回	竜退治の進化—『白鯨』から『ジョーズ』	第 18 回	携帯小説の文化史—『ディープ・ラブ』
第 4 回	ディズニーランドという聖地	第 19 回	携帯小説を読む—『窓空』
第 5 回	『アナと雪の女王』—アニメの変貌	第 20 回	ライトノベルの文化史
第 6 回	H・P・ラヴクラフト研究	第 21 回	新海誠の風景『秒速5センチメートル』
第 7 回	クトゥルフ神話の文化史	第 22 回	『君の名は。』とタイムトラベル文化史
第 8 回	テレビゲーム進化論	第 23 回	ジブリと災害—『崖の上のポニョ』
第 9 回	『ドラゴンクエスト』の文化史	第 24 回	ジブリと核—『風の谷のナウシカ』
第 10 回	災害と怪獣文化—ゴジラの文化史	第 25 回	ジブリと自分探し『千と千尋の神隠し』
第 11 回	『シン・ゴジラ』論—ゴジラの変貌	第 26 回	巨人退治の物語論—『進撃の巨人』
第 12 回	レポート発表会	第 27 回	SF映画の進化論—赤狩りの映画史
第 13 回	オタクの文化史—『電車男』論	第 28 回	ハリウッドSF映画におけるキノコ雲
第 14 回	『不思議の国のアリス』とロリータ文化	第 29 回	原爆とアニメ—『この世界の片隅に』
第 15 回	嶽本野ばらの『下妻物語』を読む	第 30 回	都市伝説の文化論
		第 31 回	まとめ ディベートなど

到達目標

政治的トピックスを考察することで、身の回りの文化現象に関心を持ち、それを分析してゆく知性を養うことを目標とする。また現代社会を生き抜くメディア・リテラシーも養成したい。

履修上の注意

マナーを尊重して楽しい授業にするために、積極的な参加を望みたい。映画の好きな学生は特に歓迎したい。時にセンセーショナルな映像を見ることがあるので、苦手な学生は注意してほしい。大量の資料を配布するのでファイルを持参。

予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

評価方法

学期末レポート（60%）、提出物およびコメントペーパー（40%）などの総合評価。

テキスト

- ・教科書名：『恐怖の表象 映画/文学における＜竜殺し＞の文化史』
- ・著者名：西山 智則
- ・出版社名：彩流社

授業概要

本演習は 3 年次からの専門演習に向けての「予行演習」と位置づけられる。したがって、本を読むこと、そして口頭発表の練習や質疑応答に重点が置かれることになる。適宜、関連する DVD を視聴し意見交換も行う。

テキストは次の 2 冊を使用する。

- ① 山崎武也『「気の使い方」がうまい人』（三笠書房、2014 年）の輪読を通して、将来社会人として活躍するために、人から信頼されることによって円滑な人間関係を築くことが大切であることを学ぶとともに、より良く生きていくためのヒントが得られればと考えている。
- ② 木村茂光他編『大学でまなぶ日本の歴史』（吉川弘文館、2016 年）を読みながら、日本近現代史におけるさまざまな出来事の歴史的な意味や背景を理解するとともに、歴史を現在の視点から捉えていくことの重要性を学んでいく。進め方としては、受講者各人に割り当てをした上で、担当箇所の発表をしてもらう。読書の習慣や口頭発表の作法を身につけてもらうとともに、歴史に親しみを持ってもらえるようキメ細かく指導する。

授業計画

第 1 回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第 2 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読①	第 17 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読①
第 3 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読②	第 18 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読②
第 4 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読③	第 19 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読③
第 5 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読④	第 20 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読④
第 6 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読⑤	第 21 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読⑤
第 7 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読⑥	第 22 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読⑥
第 8 回	就職活動関連の DVD の視聴と意見交換	第 23 回	歴史関連の DVD の視聴と意見交換
第 9 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読⑦	第 24 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読⑦
第 10 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読⑧	第 25 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読⑧
第 11 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読⑨	第 26 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読⑨
第 12 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読⑩	第 27 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読⑩
第 13 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読⑪	第 28 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読⑪
第 14 回	『「気の使い方」がうまい人』の講読⑫	第 29 回	『大学でまなぶ日本の歴史』の講読⑫
第 15 回	春期の総括	第 30 回	秋期の総括

到達目標

- ① 本を読む習慣を身につける。
- ② 口頭発表やレジュメの作成に慣れる。
- ③ 自分の意見を述べることができるようにする。

履修上の注意

- ① 日本史、特に近現代史に興味を持っている者が受講者としては望ましい。
- ② 演習は学生主体で行われるものなので、全出席することが前提である。無断欠席は認めない。

予習・復習

- ① テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく。
- ② 自分の発表に際しては、レジュメを作成する。

評価方法

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

テキスト

- ① 『「気の使い方」がうまい人』山崎武也、三笠書房
- ② 『大学でまなぶ日本の歴史』木村茂光他編、吉川弘文館

授業概要

日本の国宝・重要文化財の写真を鑑賞しながら、特徴や感想などについて話し合う。それを通じて、人前で意見を述べ、他者の意見を聴く練習を重ねる。同時に、文化財を鑑賞するポイント（仏像の姿形や持物のもつ意味とか、時代判定の着眼点など）を伝授する。なお、古代・中世の仏教美術を中心にとりあげる。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方）	第 16 回	平安時代③ 中尊寺金色堂ほか
第 2 回	美術史の基礎知識① 仏像	第 17 回	平安時代④ 清凉寺釈迦如来立像ほか
第 3 回	美術史の基礎知識② 建築・絵画	第 18 回	平安時代⑤ 厳島神社平家納経ほか
第 4 回	縄文・弥生・古墳時代	第 19 回	平安時代⑥ 源氏物語絵巻ほか
第 5 回	飛鳥時代① 高松塚古墳壁画ほか	第 20 回	平安時代のまとめ
第 6 回	飛鳥時代② 法隆寺救世観音ほか	第 21 回	鎌倉時代① 浄土寺阿弥陀三尊像ほか
第 7 回	飛鳥時代③ 法隆寺金堂・五重塔	第 22 回	鎌倉時代② 三十三間堂・観音菩薩像
第 8 回	飛鳥時代④ 中宮寺菩薩半跏像ほか	第 23 回	鎌倉時代③ 平治物語絵巻ほか
第 9 回	飛鳥時代（白鳳を含む）のまとめ	第 24 回	鎌倉時代のまとめ
第 10 回	奈良時代① 興福寺阿修羅像ほか	第 25 回	室町時代以降① 慈照寺銀閣ほか
第 11 回	奈良時代② 薬師寺薬師三尊像ほか	第 26 回	室町時代以降② 姫路城・犬山城
第 12 回	奈良時代③ 唐招提寺鑑真和上像ほか	第 27 回	室町時代以降③ 洛中洛外図屏風ほか
第 13 回	奈良時代のまとめ	第 28 回	室町時代以降④ 茶道の美術
第 14 回	平安時代① 神護寺薬師如来立像ほか	第 29 回	室町時代以降のまとめ
第 15 回	平安時代② 平等院鳳凰堂・阿弥陀像	第 30 回	中国・朝鮮から渡来した文化財

到達目標

いわゆる国宝・重要文化財級の作品を 50 点くらいは知っていて、名称・制作年代・特徴などを語れるようになること。50 点なんてたいへんだ～！と思うかもしれないが、文化財指定件数のわずか 0.3%に過ぎない。がんばろう。

履修上の注意

- * 黙って写真を見ていればよいなどと気楽に考えられては困る。活発に発言してほしい。
- * 遅刻や欠席の扱いについては、下の「評価方法」の欄を見ること。

予習・復習

- 【予習】指示にしたがって教科書に目を通しておく。
- 【復習】教科書の作品解説を読み返して理解するよう努める。

評価方法

期末ごとに筆記試験を行なって評価する。通年科目だけれども、春期末にも試験を実施することに注意。また演習科目であるから、受講態度を重視する。
配点比率：春期末試験得点 40%、秋期末試験得点 40%、受講態度 20%

テキスト

- * 教科書：『よくわかる国宝 国宝でたどる日本文化史』 岡部昌幸監修（JTB パブリッシング，2009 年）
…毎回持参すること。変更する可能性があるので、4 月に配付する「教科書販売一覧」で確認。
- * 参考書：『図説 歴史散歩事典』 井上光貞監修（山川出版社，1979 年）
…必須ではないが、持つことを強くすすめる。たいへん役に立つ本である。
- * その他、必要に応じてプリントを配付する。

授業概要

「ことば」をテーマに、「ことば」で思考し、「ことば」で表現し、「ことば」で対話をしていきます。

実際に受講者自身が、一人でまたはグループで取り組み、実践的な以下のようなことを行います。教員は最大限サポートするので、受講者は、ゼミでのまとまりを大切にしながら、自らの言葉についての感覚やスキルを磨く場としましょう。

授業計画

以下の予定は進捗状況により変更もあり得ます。学外授業を行う可能性もあります。

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	プレゼンテーションを行う①
第 2 回	ゼミの仲間を知る①	第 17 回	プレゼンテーションを行う②
第 3 回	ゼミの仲間を知る②	第 18 回	プレゼンテーションを行う③
第 4 回	インタビューをする①	第 19 回	プレゼンテーションを行う④
第 5 回	インタビューをする②	第 20 回	キャッチコピーを作る①
第 6 回	インタビュー記事を書く①	第 21 回	キャッチコピーを作る②
第 7 回	インタビュー記事を書く②	第 22 回	キャッチコピーを作る③
第 8 回	ニュース記事を書く①	第 23 回	キャッチコピーを作る④
第 9 回	ニュース記事を書く②	第 24 回	論文を読む①
第 10 回	ニュース記事を書く③	第 25 回	論文を読む②
第 11 回	短歌を詠む①	第 26 回	論文を読む③
第 12 回	短歌を詠む②	第 27 回	論文を書く①
第 13 回	短歌を詠む③	第 28 回	論文を書く②
第 14 回	短歌を詠む④	第 29 回	論文を書く③
第 15 回	まとめ	第 30 回	卒業論文発表会に参加する
		第 31 回	レポート提出

到達目標

- ① ことばとそれによる表現について興味を持ち、自分なりの視点で考察することができるようになる。
- ② 他者と関わることによって、互いの立場を理解しながら自らの世界を広げ、深めることができるようになる。

履修上の注意

すべて出席するのが前提であり、遅刻欠席をしないこと。

主体的、積極的な態度で臨むこと。

その他のルールは授業内で示す。

予習・復習

【予習・復習】決められた課題について、準備し、進行させておくこと。

評価方法

授業内での課題、発表、レポート、授業への参加態度をあわせて総合的に評価する。

テキスト

使用しない。